

# 第5期科学技術基本計画への期待



2016年 1月 12日

日本電信電話株式会社

代表取締役副社長 研究企画部門長

篠原 弘道 (Hiromichi Shinohara)



- 基礎領域
  - 基礎研究の充実・強化（必ずしも出口を意識しない）
  - 基礎領域での異分野融合・連携の推進
- 超スマート社会：Society5.0
  - “データが創り出す価値”の最大化を最重視。
    - “活用者”を主体とした“価値最大化”の追求。
    - 高い価値を生み出す個別解の早期実現。汎用解の追求ではなく。
    - システム連携、データ連携が価値を更に高めるために不可欠。
    - データを大きく使う仕組み：競争と協調。Open / Close の棲み分け。
  - 価値を生み出す環境作り
    - オープンソース戦略。オープンデータの流通。
    - キーデバイスの開発と活用。API／SDKの早期公開。
  - 安心安全なシステム作り
    - Cyber Security 対策：機密性と可用性。（一定の自立。）
    - パーソナルデータの保護。

- Society5.0の実現を阻む、  
「制度」の改革や「レガシーなエコシステム」の破壊
- データの収集、連携、相互活用、二次利用の仕組み作り
  - データを出すメリットの早期具現化。
  - データを国内に残す仕組み。
  - データフォーマットやデータ交換に関する標準化
- “広義のセキュリティ人材”の育成、採用、維持のエコシステム構築（非ICT企業を含む）
- 学際教育
- 産学、産官、産産、産×、学学のオープンイノベーション
- 提供者意識から利用者意識へのギアチェンジ
- 世界一を目指す分野のすくい上げ